

答え

- Q1. 玉かつま
Q2. B
Q3. ×

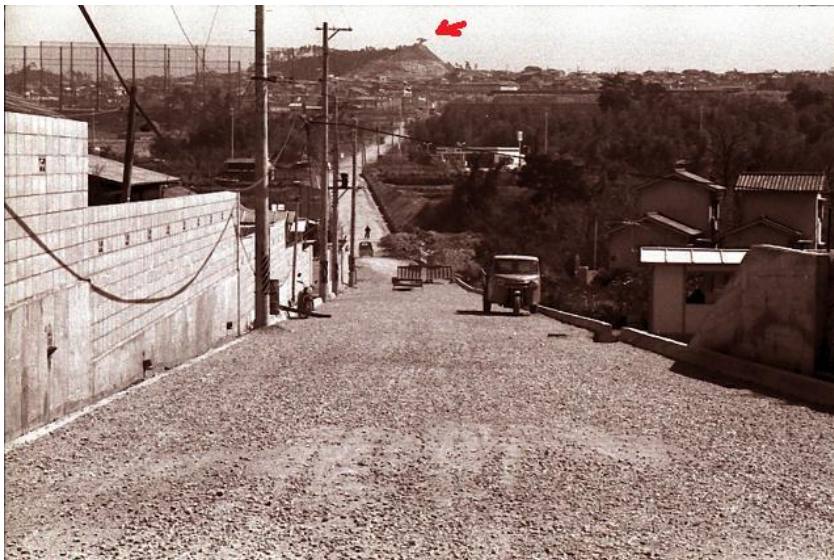


解説

Q1. 平安時代は清少納言など多くの歌人が千里丘陵（別名：寝山 ねやま）を訪れ、その名が示すようになだらかで美しい丘陵での狩りや景色を楽しんでいたようです。

Q2. 約2万年前の氷河期には、少路のあたりもカラマツなどの針葉樹林でした。しだいに暖かくなるにつれて、シイ、カシなどに変わり、薪、炭、建築材料などに使われました。島熊山にはアカマツが多く見られますが、シイ、カシを切って、生活に役立ててきたために、現在でもその姿が残っています。

Q3. 校区で最も高い場所は、131.7mで「一本松」と呼び親しまれ、現在はジオ緑丘マンションが建っている所です。江戸時代には番小屋が立っており、勝手に薪を採らないよう見張りを立てていました。島熊山は115.7mです。



春日町から島熊山方面をのぞむ

昭和44年（1969年）撮影の写真。野畑図書館前の道です。正面は島熊山で、当時は見通せたようです。矢印が一本松です。

※北摂アーカイブスより

<https://hokusetu-archives.jp/dbs/page.php?id=135>